６．体育研究会研究テーマとそれをもとにした支部の研究テーマ

「体と心を育てる体育学習　めあて学習の充実によって、運動の楽しさを味わえる体育学習を目指して」
～「気付き・考え・活動する」通して、誰もが運動の楽しさを味わえる授業づくり～

〇支部の研究テーマ

チームのために自ら気づき、考え、動く！
～どの子も運動の楽しさを味わえるティーボール学習を目指して～

〇支部研究の視点について

ゲーム領域

知識・技能
次の運動の楽しさや喜びに触れ、その行い方を知るとともに、易しいゲームをすること。

思考・判断
規則を工夫したり、ゲームの型に応じた簡単な作戦を選んだりするとともに、考えたことを友達に伝えること。

ベースボール型

知識・技能
ウ　ベースボール型ゲームでは、蹴る、打つ、捕る、投げるなどのボール操作と得点をとったり防いだりする動きによって、易しいゲームをすること

思考・判断
ア　規則を工夫すること
イ　ゲームの方に応じた簡単な作戦を選ぶこと。
ウ　課題の解決のために考えたことを友に伝えること。

ゲームに勝ちたい
楽しさ・喜び

〇打てる　〇点をとる
〇遠くにボールを飛ばす
〇狙って投げられた。
〇ボールをキャッチできた。

〇守備が上手く行った。
（セットプレー）
〇打った方向を考えられた。
〇打順を変えたら良かった。

実際の児童（中学年）は…
ルールを知らない。運動経験の差（**個人差**）が激しい。（バットの取り扱い・小さなボールの操作）

どの子も得点をとる楽しさを味わってもらいたい

Anticipation（見通し）

①上手に打って勝ちたいな。
④もっとたくさん点を取りたい！
⑦相手の得点をふせいでいきたい。

Reflection（振り返り）

③点はたくさんとれた！勝つためには…
⑥大量に得点が取れたのに負けてしまった…
⑨相手よりもたくさん点を取って失点を抑えないといけない…

Action（行動）

②たくさん打ってチームのために点数をとるぞ！
⑤ルールの工夫でさらに大量得点だ！
⑧守備で相手の得点をできるだけ低くす

〇支部で目指す子どもの姿

・力強くボールを打ったり、チームの友だちと連携して守備をしたりしている姿。
・自分と相手のチームの状況から、どんな攻撃や守備をしたらよいか考え、判断して動いている姿。
・どの子も夢中になってティーボールを楽しんでいる姿。

〇目指す子どもの姿にせまるための手立て

子どもたちが自ら気づき、意欲的に活動するために（視点①） （１）誰もが所属感を得られる指導 （２）伝えるべき技能と気づくための教師の関わり （３）学習カードによる振り返りの充実

どの子も考えを共有し合い、進んで運動するために（視点②） （１）ティータイムの活用 （２）ホワイトボードの活用 子どもたちの困り感や必要感を見取り、課題につなげ、目指す子どもの姿にせまる。

どの子も安心してゲームを楽しむために（視点③） （１）教師の関わり、子ども同士の関わり、用具やゲームとの関わり （２）気づきの共有 （３）場やルール・用具の工夫

７．めざす子どもの姿にせまるための手立て

<u>子どもたちが自ら気づき、意欲的に活動するために</u>

（１）誰もが所属感を得られる指導

投げる、打つといった経験の少ない児童にとって、失敗やミスをしてしまうことも多い運動である。そのため、苦手な子や不得意な子にとっては失敗やミスがその子の意欲または、チームの雰囲気に影響してしまうことがままある。そこで、学習のはじめに「チームで協力すること」「失敗やミスを責めないこと」「ともに喜び合うこと」で勝利が得られ、誰もが楽しめるティーボールになることを十分に伝えていく。チームの連帯感や結束が大切であることを強調していくことで、他者への関心やアドバイスなどが生まれ、自然に関わりと気づきが生じると考える。

（２）伝えるべき技能と気づくための教師の関わり

子どもたちが考えたり、気づいたりするためには、その基となる知識や技能が必要である。教師主導や子ども任せの学習では、自由な発想や子どもたちの課題解決に向けた思考や気づきが生まれてくることは考えにくい。まずは学びの種になる知識や技能を、どの程度、どのタイミングで指導していくか学級の実態に合わせて大まかな計画を立てていくことが大切であると考える。

		やってみる	広げる	深める
教師	指導 伝えるべきこと	攻撃に関する技能 ・基本的な打ち方 ・基本的な投げ方	守備に関する技能 ・基本的な捕球方法	
子ども	気づかせたいこと 考えさせたいこと	・チームみんなで協力して勝つことの大切さ ・全員に活躍のチャンスがあること	・打ち方や用具の選択 ・点をとるための動きや工夫 ・ティータイムの活用	・守備の動き ・勝つために大切にしたいこと

①基本的な動きの提示

打つ：「合わせて、引いて、打つ」を合言葉にボールをよく見て遠くに飛ばすために振りぬく技術指導を行う。もっとたくさん点を取りたいという思いから、道具の選択や、バッティング方法の選択をすることで自分に合った「打つ」を見つけられるよう支援する。

投げる：ボールを持つ手は頭の後ろまで下げることを伝え、ボールを持たない手は投げたい方向を指さす。足は投げたい方向に向けることで、塁をめがけて投げ、得点を最小限に抑えるために先回りして塁に投げよう。

捕る：足を肩幅より広げ、へその前でボールを捕るように指導する。手を大きく開いてキャッチできるようにボールをよく見る。

②気づかせたい動きと教師の関わり

１塁と２塁の間が短いため、０点で抑えることは難しい。トラベゾイドティーボールのゲーム特性に気がついたうえで、得点を最小限に抑えるために２塁に捕手を置いたり、中継の必要性を感じたりして、５人が連携して動くにはどうしたらよいのかを気づかせたい。ゲームの中でそれぞれのチームで大切にしたいことを確認しながら、適宜アドバイスを行う。

（３）学習カードによる振り返りの充実

①振り返り

チームの良かった点や改善点を出し合い振り返ることで、自分たちが気づかなかった新たな発見や修正点を見出し次時につなげていくことができる。

②学習カードによる見取り

どの子もめあてを明確にもち、競争に勝つためにはどうしたらいいか考えながら活動に取り組んでほしいと考える。そこで、一人一人が毎時間の自分の姿を振り返り、次の時間に向けためあてをもてるように、振り返りと次時のめあてを分けて書けるよう学習カードを工夫する。また、教師が学習カードをきちんと見取り、子どもが立てためあてと振り返りを十分に把握し、めあてと子どもの姿にずれがある場合にはその都度、指導するなど、子どもの姿とめあての変容を追い、指導に

いかしていきたいと考える。

【予想される子どものめあての変容】

やってみる	広げる	深める
もっと遠くまで打ちたい	うちやすいからラケットに変えてみよう。トスバッティングも練習してみよう。	アウトをとれるようにバランスよく守備につこう。
アウトを取りたいな。	あと何点必要だからトスバッティングに変えて打とう。	１塁でアウトにするのは難しいから、得点を抑えるために２塁に人を置こう。

どの子も考えを共有し合い、進んで運動するために

（１）チーム時間の確保

①ティータイム

ゲーム前にチームの時間を確保する。時間の使い方は児童判断に委ねるがアドバイスは入れていく。バッティングスイングに充てるのか、ボールキャッチの練習の時間にあてるのか、それぞれのチームで話し合い「今、自分たちに必要なこと」を大切にして、有効に使うことを伝えていく。はじめは打順やそれぞれの練習などで時間を浪費してしまうことが考えられるが、授業が進む中でこのティータイムをどう使っていくかが重要であることに気づかせていきたい。

②ホワイトボードの活用

日頃より、体育の授業やそれ以外の授業でもホワイトボードを使った話し合いをする姿がみられる。ティータイムで話し合いをする際、視覚的にコミュニケーションを図ったり、話し合いが活性化したりしやすいよう近くにホワイトボードを置いておく。ホワイトボードを活用して、対話的な意見交換を図り、説明や作戦立案の一助となるようにホワイトボードの活用を促す。

どの子も安心してゲームを楽しむために

（１）教師の関わり、子ども同士の関わり、用具やゲームとの関わり

①教師の言葉かけ

ティーボールの楽しみ方には、攻めと守りの２つの面があると考える。攻めにおいては、子どもたち全員が得点を取れるように、力いっぱいラケットやバットなどで打つ経験をしてほしい。中学年という発達段階も考慮し、どこを狙って打つかという技能よりも、力いっぱい打って、全力で走ることが夢中になってティーボールを楽しむポイントではないかと考えた。また、守りにおいては１塁ベースまでの距離を考えると全員が得点を取りやすい場の設定になっている。得点を最小限

に抑えることが勝ちへのポイントに気付くことができるような声掛けをしていきたいと考える。

②子ども同士の言葉かけ

子どもたちは教師の声かけや、アドバイスを真似する子が多い。すべての子どもが得点できる姿を作るために、励まし合う姿と得点が入ったときに認め合い、称える姿を大切にしたい。また守備の立ち位置や、ベンチカバーの声掛け、何塁に投げるのが適切かを仲間に声掛けし、少しでも相手の得点を抑えられるような言葉かけが生まれるようにしていく。

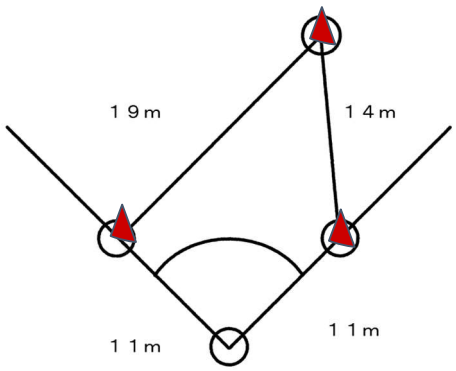
（２）気づきの共有

どのチームにとっても有益な情報や、チーム練習の様子など Chromebook をつかって学級内で共有し、子どもたちが高め合う姿を大切にしていく。

（３）場やルール・用具の工夫

通常のティーボールよりも１点を取りやすいトラペゾイドティーボールの場を用意する。トラペゾイドティーボールは、１塁から２塁、２塁から３塁に行くにつれて、ベース間の距離が長くなるという特徴があるため、多くの子どもが点を取りやすい場の設定となっている。また、ラケットやバットなど、どの用具を使うか選択できたり、ティーにのせるか、トスをあげるかを選べたりするため、子どもに合った選択ができるようになっている。

トラペゾイドティーボールの場
各塁までの距離は、１塁までを１１m、１塁から２塁までを１４m、２塁から３塁までを１９m、３塁からホームを１１mとする。またピッチングエリアは、７mとし、打者が打つまではピッチングエリアに入ってはいけないものとする。走者と捕球者がぶつからないよう円の一部を消したアウトゾーンにする。



（４）ルールや行い方

１チーム５人　全６チームで行う。守備範囲に対して人数が少ないため、作戦を工夫して効果的にアウトを取るための作戦が必要となる。各チーム攻めと守りを２回ずつ行い、間にティータイムをとって話し合う。１回の攻めはチームメンバー全員が１回打席に立ち、合計得点で競う。

（５）用具の工夫

・ティーボール１号球を使用する。

・バットとテニス用のラケットを選択して使用する。

写真　①テニスラケット ②バット ①ボール１（ティーボール１号） ②ボール２（大きいボール） ※用具の選択は自分に合ったものを使う。得点には関係しない。